

よみがえれ、労働運動 12 関東ブロック

第

回

労働運動再生への課題

―大衆と泥んこになって小さな団結づくりを―

講座の柱は「労働者は社会の主

人公だ!」

司会Ⅱ1月号から11月号までの「よみがえれ、労働運動」で主軸になっているのは、「労働者は社会の主人公だ」ということです。これは1月号のタイトルになっています。そして具体的な闘いの報告から学んできたのは、「三池闘争から学んだ「職場抵抗闘争」です。途中「むずかしくってわかんねえよ!」という読者の声に耳を傾けようということ、現在の労働者の実態を丁寧に取り上げようと軌道修正もし

てきました。

OHⅡそうだ。俺たちはこの講座で、労働者が主人公になっていない実態を聞き取りや取材でつかんできたよね。塚元さんが提起した時代(1988年)よりもっと悪くなっている。

TTⅡだから実態をつかみ、実態の一步步前の課題をどう提起するか。そのために本講座を学習してきたんだ。

KKⅡ「組織綱領草案」が提起された当時は、労働者の組織作りというのがされていたんですね。それで、そう思った時に今、労働者の組織作りとい

うのは、やられている所が一体どこにあるのだろうか、と思うわけですよ。そこところをやっていかないと労働運動ってよみがえっていかないのではないか。

大衆と小さな団結づくりを

司会Ⅱそうですね、現場の労働者の状態と、そこから友の会運動、大衆学習運動とどうつながっているのかという議論が出てきたんですね。友の会運動が大事だよという討論が率直に出されていたと思います。

## ◆みんなの学習講座



12月号について討論する関東グロック編集会議のメンバー

**KS** 11月号2月号は現場がどうなっているのかと、現場の労使関係なり運動とかそういうものはどうなっているのか、三池、国労、電通闘争に学ぶとやってきましたけれども、今の状態がひどいから今の現状と結びつかねーんだね。先輩の闘い、歴史の闘いに学ぶというというのじゃなくて、自分で足を

運んで身体を動かさなきゃだめだなと思っただね。Tくんと2人でずつと足を運んで話し合ってる中で、Mくんは今年、ハワハラのでっち上げで4月1日付で川越から車掌区へ転勤させられた彼が、職場の仲間と飲み会を7人でやっていると、7人だけじゃなくてその周りにまだいるんだと、そして議論して4人が分会総会に出て、俺はこういうことを言うと、4人で何を言うかと確認しあつたんだって。それで分会総会に出てガンガンやって、俺と彼らを集めたのは失敗だったということを思い知らせてやるんだ、と話したわけ。

だから、今の取り巻く情勢とか頭で考えているだけでは全然だめだよ。やっぱり運動は生きているというか、そういう問題が目の前にあって、現場にいる真面目な労働者はそういう許せないという怒りを持っていると、直接話をして改めて感じました。周りでダメだダメだじゃなくて、自分が意識をも

つと持って足を運んで話し合って、話し合う中でどういうところに不平不満とか怒りを持っているか、どうしたいと思ってるんだということをつかんでいかないと、労働運動をよみがえさせられないというふうに思っただね。

これはやっぱり「よみがえれ、労働運動」をやってきて良かったなと思います。

**司会** 非常に率直に「よみがえれ、労働運動」の中身がわかってきたという具体的な職場の仲間との関わりのお話でした。

**TT** KSさんが言ったことに尽きると思うんですよ。塚元さんの提起「大衆と泥んこになって小さな団結作り、負けの闘いを闘い続けることが課題」(1983年『青年の声』)ということとです。手足を動かして職場の仲間のところ、足を運んで組合員がどういう不満要求を持っているのか。つかめないうと思っただけ、手足を動かして体で

取り組んだらつかめたというんですよ。  
こゝなんですな。

**YT II** この講座で何が焦点になるかというところ、三池のように労働組合が3日3日のストライキをやっていくとか、国労のようにスト権ストをやるとかという、そういうことではなくて、三池がなんでああいう闘いをやったのか、国労がなんでああいう闘いをやったのかということをやぶ事だと思ふ。

やっぱり、このままでは働き続けれない、命が危ない、そういう問題があつたからこそ、じゃあどうするかということ、じゃあ闘おうということ、です。ですから「よみがえれ、労働運動」というのは、個人個人の思想と団結をどのように闘いに向けるのかというところがいちばん焦点になるのではないか。特に敵の攻撃というのは、資本主義的常識をずつと押し付けてくるわけですよ。資本の粕漬けという事です。あきらめがずつと蔓延してい

たわけですよ。

だから絶対競争しないと、そして闘うというそういう思想的な団結、これが「よみがえれ、労働運動」の大きな獲得目標、原点ではないのかと思ひますね。

### 本音と建て前

**司会 II** 今、YTさんの方から、思想的団結という話がありましたけれども、茨城の沼田さんが「一生懸命頑張ってきたけど変わらねえんだよなあ」という発言がMTさんの報告でもありましたが、この辺が大変難しいところかもしれないけれども、MTさんいかがでしょうか。

**MT II** 闘うためには闘う組織があつたんだなという風に思ふんです。最初は一人からなんだけれども、闘うためには組織があるということが大前提になると思ふ。一人でも闘うとはいうけれども、組織を作っていくということ

が大事ななと思ひます。

ただね、今現場がひどいという話がありますけれども、自分自身に置き換えて最近考えると、一方では建前というか闘うためには組織が必要だ、しかし、自分の職場では闘えないあきらめがある。そのギャップは、なんか情けないね。現場と講座の中身がなかなか一致しない。でも問題意識を持つて見ていると、いろいろな問題が見えてくるという事は事実ですね。

**司会 II** はい、本音と建前をMTさんから正直に出してもらいました。皆さんが青年部のころの70年代の闘いと今、労働者が闘えない元職場とのギャップもあると思ふんです。いかがですか。  
**SS II** 俺たちが若い頃70年代は、社会党の中で闘ってきたので今とのギャップはある。我々が当然と思つてることが、「そんなことはできっこないよ」と言われてしまつてね。

**MS II** 私が自分の労働組合でやってき

## ◆みんなの学習講座

たのは闘う労働運動だった。退職後、私は現職労働者の人とほとんど話をする機会が少ない。でも、この「よみがえれ、労働運動」は、現役の労働者にとつてためになる。自分が現役で闘っている時は、いろんなものを読んで学習しながら行動してきたというふうなこともあるので、現役労働者にぜひ読んでほしいと思います。

### 家族ぐるみの闘いが重要

KMⅡ『月刊まなぶ』10月号の山本幸彦さんの息子さんと同志だという話ですね。そのお母さんが『子供に』という絵本を書いてくれたというんですよ。もともとそういう文章を書くのが得意な方だったそうですが、本当に自分の子供に読ませるつもりで書いたそうです。それには、「きちんと自分の意見を持ちなさい」「意にそぐわなければ『いいえ』』という意見を持ちなさい」という教育をして育ててきたとい

うんです。山本さん自身も職場の闘いとか息子にきちんと見せてきたという話を聞いて、職場闘争が大事なんだけど、やっぱり家族ぐるみも必要なんだなというのを感じたんです。

自分自身の事では、私の父親も倒産して解雇撤回闘争をしたり、そういうのを生き様として見てきて、たまたま高校の時の先生の話聞いて父親の生き方と労働運動が結びついて今の私がいると思います。家族ぐるみが必要なのかなあと思います。

TTⅡKMさんから家族ぐるみという話があったでしょう。この小さな団結作りともう一つはね、家族ぐるみだと思っんですよ。

我々自身がどういう家族ぐるみを展開するかということです。職場で起きていることの話を家族の中で話し合っで、そこから展開して同志という風になつてくるのではないか。

### 何をなすべきか

司会Ⅱもう少し話を進めてですね、今、職場でものが言えないと言う。でも我々のメンバーは闘ってきたじゃないですか。SSさんも昔の職場でやったことが今は言えていないという声もありましたけれども、今、労働組合が闘えない、職場でものが言えないというのは、なぜこうなったのかということも出しながら、第一学習会との絡みとか、なぜ自分たちは今の運動しているのかも含めて話してほしいと思います。また、YTさんから展望という話も出ましたけれども、どうしたら今の状況を変えられるのかということを出してもらいたいと思います。いかがでしょうか。

KSⅡ足を運んだというのはね、それまでは俺がやったりTさんがやったりで第一学習会の人に打ち合わせしてただけけど、でも、TAさんが辞めると言った時、その時になんで辞めるのか

というのがわからなかったわけだよ。それで、これからは読者に当たるときは相手と日程を確認して必ず2人で会おうというふうにしたんですよ。

俺の反省は、職場に友の会員を残してこれなかった。読者を残したけれども会員を作れなかったというのが反省としてあるんですよ。だけどやっぱりそういう反省の上で、弱さとしてあるんだけれども決してダメじゃない。展望は取り組み次第と言われるけど、努力すれば前進できる課題なんだというのがあると思うんだよね。

**O H** Ⅱ私の場合、N関労山梨支部は職場へ組合員作れなかったから旗を閉じてしまい、N関労の運動を継続できなかった悔しさや反省があります。けれども、N関労の組合員として闘った誇りがありますし、その闘いが今の党まなぶ、市民運動を含めて自分のエネルギーになっていくというふうに思っています。

**Y T** Ⅱ友の会の第一学習会は、本当にね、闘いの砦になっていくかどうか、本音として闘える学習会になっているかどうか、第一学習会の中で職場は違うけどどういう風に考えればいいのか、何ができるのかとか、そういう話し合いをやってきたわけですよ。第一学習会の中で組織的に相談する、話し合うそういうことができているかどうか。

**M T** Ⅱこの間、新会員Sさんの歓迎会を、県協の役員との顔合わせをしたんですよ。県協の役員の中で現役の人がいなくなっちゃったんですね。彼が来てやっぱりね、現役で働いている人との交流が大事だなあと、職場の話は新鮮だとつくづく思ったね。真面目なんだよね、彼は。その彼が、M TさんたちはN T T労組をどんなふうに見ているんですか、と聞いてきてね、俺はその言っても、自分の経験では労働組合は腐っても鯛だと思う。組合があるのとないのでは雲泥の差で、いくら会

社寄りの組合だと言っても、労働組合は労働者の権利を守るんだというのがあって、労働組合があるのとないのでは違うと思うと一言ただけだよ。

**K M** Ⅱ労働組合をどうやったら再生できるのかというのを考えたときに、私はずっと民間で働いてきて何にもしない組合だし、組合の委員長書記長になると任期が終われば職制の椅子が待っているという労使協調ではない中で、どうやったら自分たちの中で、私たちが意見が分かってもらえる組合役員ができるのかなと、そういうことを考えたらね、無理なんじゃないの！と考えちゃうわけですよ。

総評が解体して連合成立という大きな流れの中で、労働運動というか組合運動として闘いを経験した人がどんどん少なくなっている。だから今こそ私たちが若い人たちに伝えるべきことを伝えていかないとダメだと思う。

**T T** Ⅱ非正規が多くなって、未組織労

## ◆みんなの学習講座



74年国民春闘でスト決行！意気盛んな全電通山梨県支部通信部分会青年婦人会議

働者が非常に増えていますね。だけれどね、地域ユニオンにね、相談がどんどん増えているんですよ。就業規則があるということを知らない、労働基準法

で自分の労働条件が保障されているということを知らないんです。だから残業代未払いね、有給があるかどうかもわからない、結局ね、就業規則をみていない、あるいはないわけですよ。

そして、肝心の労働基準法を知らないんですよ。地域ユニオンでは未組織労働者が自分の労働者としての権利を学ぶ絶好のチャンスなんです。憲法第27条労働者の権利の保障義務をユニオンで学んで、これを横に広げていく。この活動も必要だと思うんですね。

**司会II** そろそろ時間になりました。今日は「労働運動再生への課題」ということで座談会をしてきましたが、最後に私たちにとって何が課題かTTさんからまとめていただきたいと思います。TTII さっきも言いましたが、大衆と泥んこになって小さな団結作りをするということ。職場の仲間のところに足を運んで組合員がどういう不満、要求を持っているのかつかむことが大

事です。ここから始まるんですね。主人公が主人公になつていない。この実態から出発するというですよ。

独走を恐れない。小さな団結・五人組家族ぐるみの団結。これを取り組む以外にないんですね。『月刊まなぶ』で紹介したけれども、東京東部労組の世田谷第三職員支部の労働組合で、2人の女性が67日間無期限ストライキをやったんですよ。やっぱり労働者が社会の主人公だと確認できたという話があるんです。ぜひこういう闘いを広げていただきたいと思えますね。

**司会II** はい、これで「よみがえれ、労働運動」の12カ月間の講座を終わります。労働運動の再生が言われて久しいですが、まだまだ多くの課題を抱えています。本講座がその課題克服の一つのヒントになれば何よりもうれしいと思います。一年間のご愛読ありがとうございました。